



誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持てるまち・港区

# 港区

面積	20.36km <sup>2</sup>
世帯数	153,508世帯
人口	267,250人
(うち外国人)	21,863人
予算	1,846億円
職員数	2,296人



芝地区  
バラと東京タワー



麻布地区  
六本木けやき坂通り



赤坂地区  
榎町公園

## 歴史・見所・名所

港区の地域は、歴史的には、幕末外交・明治維新の拠点として、あるいは、文明開化における鉄道・ガス・新聞の発祥地として、様々な分野にわたる転換の舞台となってきました。

現在の港区の姿は、昭和22(1947)年3月15日、旧芝区、旧麻布区、旧赤坂区の3区の合併にその誕生を遡ります。「港区」という名称は、各区の関係者から提案されたもののうち、「今後の我が国の発展は貿易の振興にあるが、その素材ともいえる東京港を包含している」として「東港区」が候補となり、そこから「東」の1字を除いて、「港区」となったことに由来します。

現在、港区は、陸・海・空の数多くの交通の結節点として位置するとともに、多様な地域資源の集積を背景とした情報発信地として、我が国の社会経済における主要な地域となっています。

## 概要

### ア 地理

港区は、東京都のほぼ南東部に位置し、東京湾に面しています。東は中央区と江東区、北は千代田区と新宿区、西は渋谷区、南は品川区にそれぞれ隣接しています。

### イ 地形

港区は、北西一帯の高台地と南東の東京湾に面した低地及び芝浦海浜の埋立地からなっています。東京23区の中で最も起伏に富んだ地形を形成し、区の中央部には、西から東に流れる古川(金杉川)流域に平地部が横たわっています。

### ウ 人口推移

港区の人口は、昭和36(1961)年の25万6,038人から減少傾向が長期的に続き、平成7(1995)年には15万人を割り込みました。平成8(1996)年を境に増加傾向に転じ、平成21(2009)年には約四半世紀ぶりに20万人台に回復し、平成29(2017)年には25万人台に達しました。令和6(2024)年4月1日の人口は26万7,250人であり、区の推計では今後も増加傾向が続くと見込んでいます。

### エ 特徴のある取組

「参画と協働」を区政運営の柱に据え、区内の5つの地区に総合支所を設置し、地域の課題を地域で解決する取組を進めています。

また、「港区版DX」を押し進める中で、区民が来庁することなく、質の高い行政サービスを受けられる区役所の実現をめざし、令和6(2024)年3月末に、法令上の制約等があるものを除き、区が受け付ける行政手続を100%オンライン化しました。全ての行政手続のオンライン化を達成した自治体は、東京都内では港区が初めてです。

## オ 「全国連携の港区」の実現に向けて

港区では、平成28(2016)年4月から全国連携を推進する専管組織を設置し、自治体間のみならず、住民間、産業間等幅広い連携に取り組んでいます。

港区と全国各地域が様々な分野において積極的に手を携え、共存・共栄を図る全国連携の取組を推進することで、互いの地域の住民の暮らしをより豊かにするとともに、日本全体の成長・発展につなげます。

### 主要課題

#### ① 希望あふれる「にぎわいと活力に満ちた都市」の実現

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた区民の暮らしや区内産業に丁寧な寄り添いながら、戻りつつあるまちのにぎわいを加速し、コロナ禍以前をも超える活力を呼び起こします。

#### ② あらゆる危機から区民の命を守る「強靱な都市」の実現

地震、台風などの自然災害や新たな感染症など様々な脅威を想定して、あらゆる危機から区民の生命と財産を守り、安全・安心で強靱な都市を形成します。

#### ③ 地域全体で育む「子どもの笑顔あふれるまち」の実現

望む人が安心して子どもを生み、育てられる環境を整え、子どもが社会の一員として地域の人々に大切に育まれるまちづくりを進めることで、次の時代を担う子どもたちが幸せに暮らせる社会を実現します。

#### ④ まちの発展と環境負荷の低減を両立する「持続可能な都市」の構築

経済活動や新たなまちづくりなどのまちの発展を支える取組と、環境負荷を低減させ都心の水辺や緑を守り育てる取組を両立することで、SDGsの達成にも貢献する「持続可能な都市」を構築します。

#### ⑤ 多様な人がともに支え合いながら暮らす「地域共生社会」の実現

子どもや高齢者、障害者、外国人、性的マイノリティの方などあらゆる人が、ともに支え合いながら、自分らしく生きがいを持って心豊かに暮らせる地域共生社会を実現します。

#### ⑥ 「人口増加」に伴い拡大する行政需要への的確な対応

今後の人口増加に伴って拡大していく行政需要に的確に対応することで、安心して子どもを生み、育てることができ、高齢者や障害者など誰もが安心して住み続けられる環境を整備します。

#### ⑦ 区民サービスを飛躍的に向上する「港区版DX」の加速化

AIやロボットなど日々進化する先端技術を活用し、これまでの「港区版DX」の取組を加速することで、区民の利便性の向上と区の業務の効率化により区民サービスを一段と向上させます。

#### ⑧ 地域の力を結集して課題を解決する「参画と協働」の推進

区民、民間、全国各地域の力を結集して、多様な主体とのネットワークを生かし、行政だけでは困難な課題の解決を図る、都心にふさわしい「参画と協働」の取組を進めます。

### 将来展望

令和6(2024)年1月、令和8(2026)年度末までを計画期間とする「港区基本計画」を改定しました。改定を経た港区基本計画を区政の道しるべとし、先人たちがたゆまぬ努力によって築き上げてきた日本有数の都市である港区を、子どもから若者、子育て世代、高齢者まで、あらゆる世代が住み続けられるまちへと進化させ、全国をけん引する「唯一無二の都市」へと輝かせていきます。



高輪地区  
桜田通り(国道1号)



芝浦港南地区  
台場